

2019年3月1日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 510

— 教学マネジメントの達成 —

学修成果可視化の取組みと実際 2

～ 可視化の方法・ツール／社会への発信・共有／4ポリシーの実働化 ～

ご参画・ご派遣のお願い

先日、文科省から「平成 30 年度私立大学等改革総合支援事業」の選定結果が公表されました。この事業は調査票の回答状況を得点化し合計得点が高い大学から選定される方式を採っております。「タイプ 1 教育の質的転換」の「2. 教育内容・教育方法に関する取組」では「学修成果等の活用」について尋ねる項目があります。質問は、ア) 外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定（アセスメント・テスト）、イ) 学生の学修成果を把握するためのアンケート調査等、ウ) 学修評価の観点・基準を定めたルーブリックの活用、エ) 学修ポートフォリオの活用、の4つのうち、いずれかの手法を用いて把握した学生の学修成果について、学生の学修指導、キャリア相談等に活用しているかを訊いています。

結果は、622 の申請校のうち、実に半数以上の 322 校（52%）が「全学部等で活用している」と回答しています。なお、「タイプ 1」に選定された 207 校では 86%にあたる 179 校が「全学部等で活用」と回答。平成 30 年度における本事業（タイプ 1）の申請校の内訳は大学 420、短大 200、高専 2 であり、学修成果可視化については、この数字を見る限り、学修成果は多くの大学等で活用されていることとなります。一方で、申請校全体のおよそ 4 割が「いずれも該当しない」と回答しています。

本テーマについては、2015～17 年に小会でも 4 回のセミナーを開催し、様々な方法やツールを用いて可視化を行っている大学から取組みの報告を賜りました。様々な試行錯誤や工夫をしながら、可視化に努める事例をご紹介いただき、その努力に頭が下がるばかりです。

平成 30 年度調査の結果を見る限り、「学修成果の可視化」は既に“成熟期”を迎えていると言っても良いでしょう。だからこそ、改めて学修成果を把握し、見える化し、活用することの意義を考えることは有意義なことと存じます。ツールや方法は揃ったけれど、果たして取組みが上手くいっているのでしょうか。

本セミナーでは、学修成果の可視化に向けた取組みに積極的な東京都市大学、大阪市立大学、宇都宮大学の 3 大学からの報告と、この取組みを 10 年に渡って続けてこられた半田 智久氏（お茶の水女子大学）からは、この間の紆余曲折や今後の展望について、論展いただきます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/190326.pdf>

※訂正 会場が東京・麹町の「剛堂会館（明治薬科大学） 会議室」に変更となっております。ご留意願います。

※訂正とお詫び 2月15日（金）に配信の「地域科学 KKJ セミナーニュース 506『2019年3～4月開催セミナー』のご案内」において、第4講師の石井 和也氏の表記が誤っていました。訂正とともに、お詫び申し上げます。